

基本目標	市民とともに歩むまちづくり【協働・行財政運営】
施策名	多文化共生
<p>すべての市民が国籍などに関わりなくお互いを尊重し、ともに地域づくりに参加できるように、国際感覚の豊かな人づくりや国際交流に取り組む団体の育成、市民主導の国際交流事業の充実、外国人の生活支援などの取組を推進します。</p>	
<p>施策が目指す蒲郡市の将来の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際社会への進展に対応し、市民主導の国際交流事業が充実しています。 ●すべての市民が国籍などに関わりなくお互いを尊重し、ともに地域づくりに参加しています。 	

◆具体化した施策の取り組み実績

1 国際感覚あふれる人づくり

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
小中学生の海外派遣事業	○小学校各校1人(13人)アメリカ ○中学校男女各校1人(14人)オーストラリア(学校教育課)	○小学校各校1人(13人)アメリカ ○中学校男女各校1人(14人)オーストラリア(学校教育課)	○小学校各校1人(13人)アメリカ ○中学校男女各校1人(14人)オーストラリア(学校教育課)
多文化共生講座の開催	—	ボランティアスキルアップ講座の開催・国際理解講座の開催	韓国語・英会話・中国語講座の開催

2 組織の育成

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
国際交流協会の運営体制の強化	4部会の自主運営補助	4部会の自主運営補助	4部会の自主運営補助

3 国際交流事業の充実による地域活性化

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
観光経済交流事業	○中国教育旅行団の受入 ○外国人観光客4,113人(宿泊)	外国人観光客3,571人(宿泊)	○中国教育旅行団の受入 ○外国人観光客誘致
ギズボーン市やポーランド等との交流事業	○ニュージーランドギズボーンリトン高校生ホームステイ受入 ○ポーランド文化交流事業「ショパンへの誘い」 ○メルボルングラマースクール交響楽団公演びホームステイ受入 ○青少年国際交流音楽祭(いずれも企画広報課)	ポーランド文化交流事業「ポーランド音楽祭」(企画広報課)	○ニュージーランドギズボーンリトン高校生ホームステイ受入 ○青少年国際交流音楽祭

4 国籍などに関わりなく住みよいまちづくり

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
日本語教室	3教室(大塚・塩津・日本語)開催	3教室(大塚・塩津・日本語)開催	3教室(大塚・塩津・日本語)開催
プレスクールの開催	—	2人参加	随時開催(原則1~3月)予定

◆評価指標

指標名	区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	将来目標
国際感覚あふれる人づくり	目標値		国際感覚と理解を深め、多文化共生意識を持つ。	国際感覚と理解を深め、多文化共生意識を持つ。	国際社会への進展に対応し、市民主導の国際交流事業の充実
	実績値	小中学生が海外教育研修を実際に経験し国際感覚と理解を深めた。	小中学生が海外教育研修を実際に経験し国際感覚と理解を深めた。		平成32年度
組織の育成	目標値		協会の自主運営に向けた取り組み内容の模索	協会の自主運営に向けた取り組み内容の模索	国際社会への進展に対応し、市民主導の国際交流事業の充実
	実績値	協会の自主運営に向けた取り組み内容の模索	協会の自主運営に向けた取り組み内容の模索		平成32年度
国際交流事業の充実による地域活性化	目標値		諸外国との交流促進のため市民レベルの友好交流を図る。	諸外国との交流促進のため市民レベルの友好交流を図る。	国際社会への進展に対応し、市民主導の国際交流事業の充実
	実績値	ギズボーン市との交流、ポーランドとの文化交流事業等の実施	ポーランドとの文化交流事業の実施		平成32年度
国籍などに関わりなく住みよいまちづくり	目標値		互いの文化、価値観の違いを理解し、協力し合って地域づくりを行う。	互いの文化、価値観の違いを理解し、協力し合って地域づくりを行う。	国籍などに関わりなくお互いを尊重し、ともに地域づくりに参加
	実績値	日本語教室の開催	日本語教室の開催、ボランティアステップアップ講座、国際理解講座の開催		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
国際感覚あふれる人づくり	小中学生が海外研修で実際に外国人と触れ合ったり、歴史や文化、風習の理解を深める教育の充実を図り、市民が国際感覚にあふれ、多文化共生意識を持てるよう講座等を開催する。
組織の育成	協会の自主運営に向けた取り組みを行う。
国際交流事業の充実による地域活性化	姉妹港提携したギズボーン市やフレンドシップ事業相手国のポーランドなどの諸外国との交流を促進、拡大するなど、国際交流事業を充実することにより地域社会活性化を図る。
国籍などに関わりなく住みよいまちづくり	外国人も住民の一人であることを理解し、協力し合ってよりよい地域づくりを行う。日本語教室を拠点として互いの文化を理解し、円滑なコミュニケーションが行われるようにする。

◆指標の分析

毎年、小中学生が海外研修で海外生活を通して外国人と触れ合い、文化や生活習慣の違いなどに対する理解を深めている。本市に居住する外国人の増加に伴い、日常生活において、特に子どもたちは学校等で外国人と触れ合う機会が増えてきている。日本語教室などを中心に、外国人も住民の一人として、少しずつであるが協力し合って地域づくりに関わりを持つようになってきている。
 姉妹港ギズボーン市やフレンドシップ事業相手国ポーランドとの交流を始め、諸外国との交流については、国際交流協会を中心にホームステイなどの交流事業を展開しており、活動は市民において定着しつつある。

◆今後の方針

施策の課題
 市民と外国人が互いの文化や価値観の違いを理解して円滑なコミュニケーションを図るために、日本語教室を拠点としたさらなる活動の充実が必要である。外国人への多言語による情報発信や、生活するための日常的な問題についての相談窓口の開設が必要と思われる。
 また、市民や民間団体が幅広く自主的な交流ができるように、国際交流協会の自主運営に向けた取り組みを行うことが求められている。

今後の施策展開
 交通手段や通信手段の発達により、人、もの、情報の交流が拡大しており、市民にとって海外は身近なものとなっている。本市を訪れる外国人と市民が触れ合う機会や、生活の拠点を置く外国人も増えてきており、市民が国際感覚を持ち、多文化共生の意識を共通して持つことが求められている。国籍などに問わずお互いを尊重し、ともに地域づくりに参加し、市民主導の国際交流事業を充実させるためにも、国際交流協会の自主運営を目指して組織の育成に努める。

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	B: 一部見直しが必要である。
	コメント	外国人に対してホームページの自動翻訳等多言語による情報発信は行っているが、地域社会で生活する上で十分理解できていないことも多くあると考える。生活するために必要な情報の提供、地域社会での生活習慣の違いによるトラブル発生の予防等のため、相談する窓口の開設を考えていくことが必要だと考える。

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり順調に進行している。
	コメント	「国際交流」は、外国からのお客様を歓迎したり、外国への訪問により触れ合いを深めたりすることであるが、「多文化共生」は、外国人も同じ地域の住民として互いに認め合い、共に地域づくりをしていこうというものである。 本来なら分けて考えるべきであるが、本市では市民主導の国際交流事業の中で、多文化共生も積極的に取り組まれているので、総合的な施策として推進している。 平成24年度から、文化スポーツ課が担当しているが、「国際交流」と「多文化共生」は広い意味でのまちづくりであるから、教育よりも企画部門が担当するのが望ましいと考える。

施策に属する事務事業一覧

総合 計画	所管課	番号	事業名	人件費を除く 事業費(千円)	人件費 (千円)	人工	総合 評価	事業の 種別	市長 マニフェスト	実施 計画
6-4	企画広報課	15	国際交流事業	5,150	4,410	0.70	B	カ	-	○